

# 木曾川水系連絡導水路意見交換会

発表者 松尾直規

# 名古屋市の提案に関する意見

- 基本的に賛成
- 木曾川水系連絡導水路（以下、導水路）は、名古屋市民の命とくらしを守る水に関する保険（様々なリスクに対する備え）
- 導水路なくして上記の保険に対する補償は受けられない。
- 堀川の浄化用水としても有効

# 増大する様々なリスクその1 ー 渇水 ー

- 近年、降水量の変動が激しく、年単位で見れば水需要量 < 取水可能量であっても、月単位で見れば水需要量 > 取水可能量となる渇水リスクが増大
- 上記の傾向は、温暖化に伴う気候変動で益々強まるとともに、蒸発散量の増大、積雪量の減少等により渇水リスクはさらに増大

## 増大する様々なリスクその2 ー水質事故ー

- 御嶽山の噴火による水質汚染の事例
- 木曾川流域で同様の事象が起きれば、取水停止のリスクあり

## 増大する様々なリスクその3

### －取水、導水施設の老朽化に伴う取水停止－

- 矢作川の明治頭首工における漏水事例
- 施設の老朽化による取水機能障害や大規模漏水、あるいは地震等による施設の損傷等が起これば、取水制限あるいは停止のリスクあり

## 増大する様々なリスクその4 —流域治水に伴うリスク—

- 水源のダム（牧尾ダム、岩屋ダム、味噌川ダム）において利水容量の治水容量への振り替え（合計約3400万 $\text{m}^3$ ）による洪水防御（事前放流）が実施見込み
- しかし、現時点での雨量予測精度は必ずしも高いとは言えず、上記の措置後に貯水量の回復が遅れ、取水制限につながるリスクあり

# 堀川の浄化用水

- 現在の堀川は、庄内川からの導水（毎秒0.3m<sup>3</sup>）とわずかな地下水の導入以外は、下水処理水が流入し、水質浄化には限界あり
- 木曾川連絡導水路の水が浄化用水として利用できれば、十数年前に実施された社会実験で実証されたように納屋橋までは、水質浄化が可能
- 浄化用水としての利用には、いくつかのハードルがあり、実現に向けた市民の後押しが不可欠